

びまん性過誤腫性肺脈管筋腫症 (Pulmonary lymphangio-leiomyomatosis) に対する一肺葉生体肺移植

福岡大学における二例目の生体肺移植手術

白石 武史 ¹⁾¹⁴⁾	平塚 昌文 ¹⁾	樋口 隆男 ¹⁾
柳沢 純 ¹⁾	宗像 光輝 ¹⁾	榎本 康子 ¹⁾
山田 哲平 ¹⁾	上野 孝夫 ¹⁾	巻幡 聰 ¹⁾
吉永 康熙 ¹⁾	山本 聡 ¹⁾	岩崎 昭憲 ¹⁾
山内 靖 ²⁾	三上 公治 ²⁾	乗富 智明 ²⁾¹⁴⁾
山下 裕一 ²⁾¹⁴⁾	川原 克信 ³⁾	岡林 寛 ⁴⁾
久良木隆繁 ⁵⁾	藤田 昌樹 ⁵⁾	渡辺憲太郎 ⁵⁾
佐光 英人 ⁶⁾	西川 宏明 ⁶⁾	朔 啓二郎 ⁶⁾
濱田 孝光 ⁷⁾	岩切 重憲 ⁷⁾	比嘉 和夫 ⁷⁾
尾籠 晃司 ⁸⁾	藤内 栄太 ⁸⁾	西村 良二 ⁸⁾
坂本 真美 ⁹⁾	寺田 久子 ⁹⁾	森重 徳継 ¹⁰⁾
岩橋 英彦 ¹⁰⁾	田代 忠 ¹⁰⁾	岩崎 敬雄 ¹¹⁾
鍋島 一樹 ¹²⁾	高石真奈美 ¹³⁾¹⁴⁾	白日 高歩 ¹⁾¹⁴⁾

1) 福岡大学医学部呼吸器・乳腺内分泌・小児外科

2) 福岡大学医学部消化器外科

3) 大分大学医学部第二外科

4) 国立病院機構福岡東医療センター

5) 福岡大学病院呼吸器科

6) 福岡大学病院循環器科

7) 福岡大学病院麻酔科・SICU

8) 福岡大学病院精神神経科

9) 福岡大学病院手術室看護部

10) 福岡大学医学部心臓血管外科

11) 福岡大学医学部リハビリテーション部

12) 福岡大学病院病理部

13) 福岡大学病院看護部臓器移植コーディネーター

14) 福岡大学病院臓器移植医療室

要旨：びまん性過誤腫性肺脈管筋腫症の30歳女性患者に対し、右下葉を移植肺とする一肺葉移植を実施した。患者は2年間にわたって脳死肺移植待機患者リストに登録されていたが、呼吸不全症状の進行に伴い脳死肺提供を待ちきれぬ見込みが乏しいと判断され生体肺移植が実施された。生体肺移植の標準的な術式である両側下葉移植と異なる「一肺葉移植」であり実験的な要素を含む移植であったが、術後の経過は極めて順調で患者は手術のおよそ1か月後に自宅退院を果たした。術前は24時間の在宅酸素療法必要としていたが、術後にこれは必要なくなり身体の活動も著しく向上した(HJ- ° °)。患者は現在家庭内においてリハビリテーションを行い社会復帰を目指している。

キーワード：肺移植, 生体ドナー, LAM, びまん性過誤腫性肺リンパ脈管筋腫症